

畑雑草の幼植物 (10)ハコベ類

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

ナデシコ科ハコベ属は温帯以北の冷涼な時期に生育する一年生の草本で畑地、樹園地、畦畔など幅広い立地で見られ、冬作の雑草となることが多い。ハコベと称される種には、コハコベ *Stellaria media* とミドリハコベ *S. negreccta* の2種があり、耕地など攪乱の頻繁な陽地ではコハコベが多い。ミドリハコベは攪乱頻度の低いやや日陰の立地に生育する。ウシハコベ *S. acutica* は大型で、湿り気のある土地に多い。ノミノフスマ *S. alsine* は畦畔や湿った土地に生え、収穫後の水田に多く、二毛作麦類の主要雑草である。

コハコベの子葉は長だ円形で先が尖り、基部や胚軸は紅紫色を帯びる(写真-1)。ウシハコベの子葉は披針形でやや幅広く、黄緑色である(写真-2)。ノミノフスマの子葉は披針状だ円形で、長さ約3mmでこの3種のうちでは最も小さい(写真-3)。コハコベの幼葉は卵形で先が尖り、葉柄に1列に毛が並び、基部は赤褐色となる(写真-4)。ウシハコベの幼葉は披針形から広卵形になり、先がとがる。葉柄にはまばらに長毛がある(写真-5)。ノミノフスマの幼葉は子葉と同形で葉の先端は尖り、葉柄はない(写真-6)。ナデシコ科の植物はいずれも葉を対生する。

3草種とも地際でさかんに分枝し、生育初期は放射状に茎を広げる。コハコベは茎の片側に1列の軟毛が並び、節は褐色を帯びる(写真-7)。葉は卵形で深緑色、茎下部の葉は葉柄が

長い。

ウシハコベの幼植物は葉縁がわずかに波うち、葉の表面に紫色の斑点が出る。葉は生育とともに卵形～心形となる(写真-8)。ノミノフスマは全体が無毛で、白色を帯びる(写真-9)。

ハコベ類の植物体は軟弱で、はじめ茎は平伏するが、密生すると茎上部が立ち上がる。コハコベの生育初期は葉柄があるが、生育とともに上部の葉は無柄となる(写真-10)。近縁のミドリハコベでは植物体全体が淡緑色の場合が多いが(写真-11)、生育地によってはコハコベとの中間型も見られ、識別は難しい場合もある。ウシハコベも茎上部の葉は無柄で茎を抱く(写真-12)。ノミノフスマは節間が長く、葉が幅狭いため、植物体全体がまばらな印象を受ける(写真-13)。

ハコベ類の花弁は白色で5枚あるが、基部まで2深裂するため、10枚あるように見える。コハコベは花柱が3個、雄ずいは5本前後(写真-14)。ミドリハコベは8本前後ある。都市部の植え込みなどでよく見られる近縁の帰化種イヌコハコベ *S. pallida* はコハコベによく似るが、全体に小型で花弁がなく、萼の基部に紫色のしみが出ることが多い(写真-15)。ウシハコベは花柱が5個あり、雄ずいは10本、花柄と萼片に短い腺毛が密生する(写真-16)。ノミノフスマは花弁が萼片より長く、花柱は3本で、短く目立たない(写真-17)。



写真-1 コハコベの子葉。



写真-2 ウシハコベの子葉。



写真-3 ノミノフスマの子葉。



写真-4 コハコベ幼植物。



写真-5 ウシハコベ幼植物。



写真-6 ノミノフスマ幼植物。

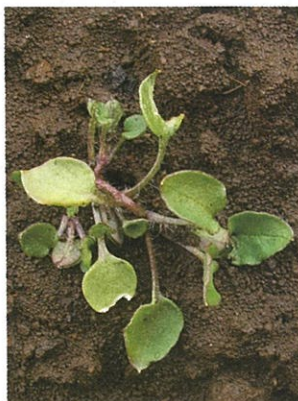
写真-7 コハコベ生育初期
(子葉節から分枝始め)。写真-8 ウシハコベ生育初期
(子葉節, 第1対生葉節から分枝)。写真-9 ノミノフスマ生育初期
(子葉節, 第1対生葉節から分枝)。



写真-10 コハコベ生育中期。



写真-14 コハコベの花序。



写真-15 イヌコハコベの花序。

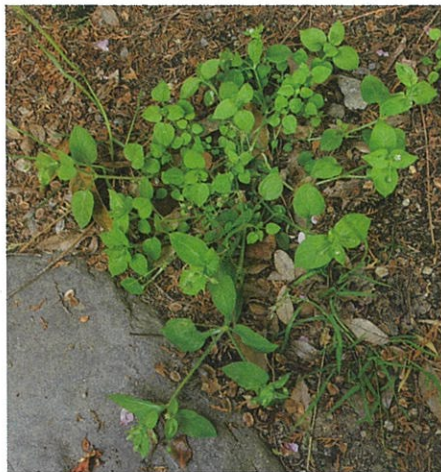


写真-11 ミドリハコベ開花始め。



写真-16 ウシハコベの花序。



写真-17 ノミノフスマの花序。



写真-12 ウシハコベ生育中期。

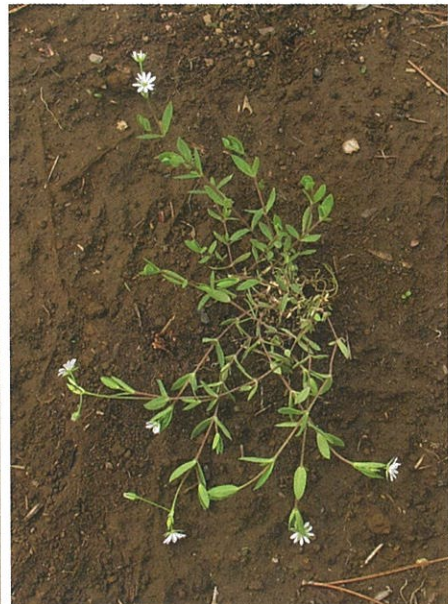


写真-13 ノミノフスマ開花期。